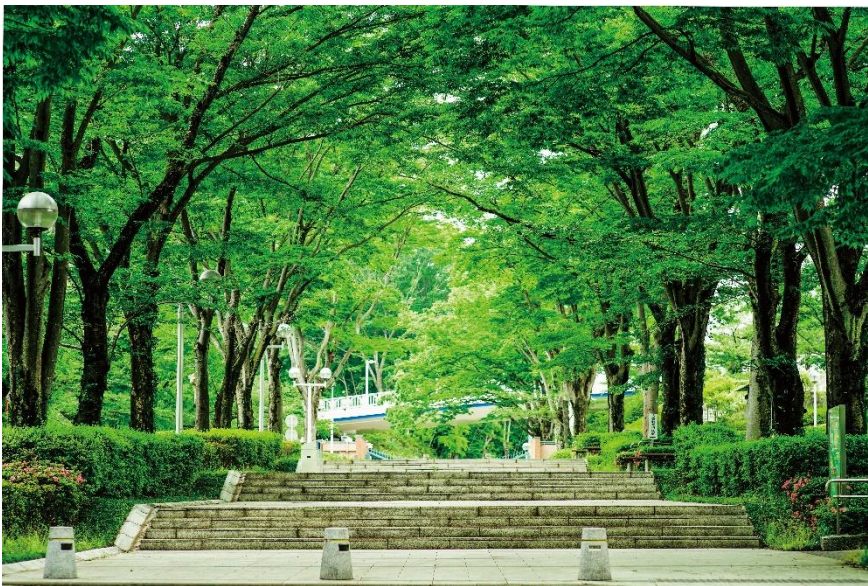


# 学びのレポート 2021



## 1. 本レポートについて

### i. 本レポートの目的

本レポートは、本学が実施している「学生生活アンケート」の調査結果をもとに、創価大学学部生（以下、創大生）における学びに関する分析結果を各号ごとに観点を変えながら報告をしていきます。

本レポート結果をもとに ①本学内において創大生の学びの共通理解を生み出すこと、②調査回答者である創大生のみなさんが自身をふりかえり、これからの学びを考える一助となること、③自分以外の創大生の学びについて知ること、自らの学びへの刺激となることを目指していきます。

## ii. 「学生生活アンケート」の概要

大学における諸活動の点検・評価とそれに基づく改善・向上の取り組みによる「教育の質保証」が求められている中、「学生生活アンケート」は次の事を目的に掲げています。

1. 創大生における日常生活の実態把握（意識・行動）及び点検
2. 学生意識の側面からの大学運営の点検
3. グローバル教育に関する点検および改善策のための情報収集
4. IR データと統合し、成績や就職状況との関係の把握

上記の目的のもと、「学生生活アンケート」はアンケート実施時において本学に在籍する創大生を対象に悉皆調査として、本学の学習支援ポータルを經由してオンラインで実施しています。

質問項目は学生のアンケート回答への負荷も考慮して学年ごとに設問数を調整し、2020年度においては1年生74問、2年生61問、3年生59問、4年生75問となっています。また、2020年度の設問については、COVID-19の感染拡大による学生生活の変化も鑑みて設問内容の一部見直しを図りました。

2020年度のアンケートは、11月14日～12月4日の21日間で実施し、回収率は表1の通りでした。

表1 2020年度 学生生活アンケート 回収率

①対象者数	②回答者数	③全問回答者数	回答率 (②/①)	全問回答率 (③/①)	全問回答 到達率(③/②)
6,953	3,366	3,059	48.4%	44.0%	90.9%

なお、学生生活アンケートの調査結果概要は、下記の本学HPにも掲載して公開しており、学内外問わず誰でもアクセスして参照することが出来ます。

学生生活アンケート：<https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/studentsurvey/>

## 2. 「他者と協力して行動する力」が伸びる大学

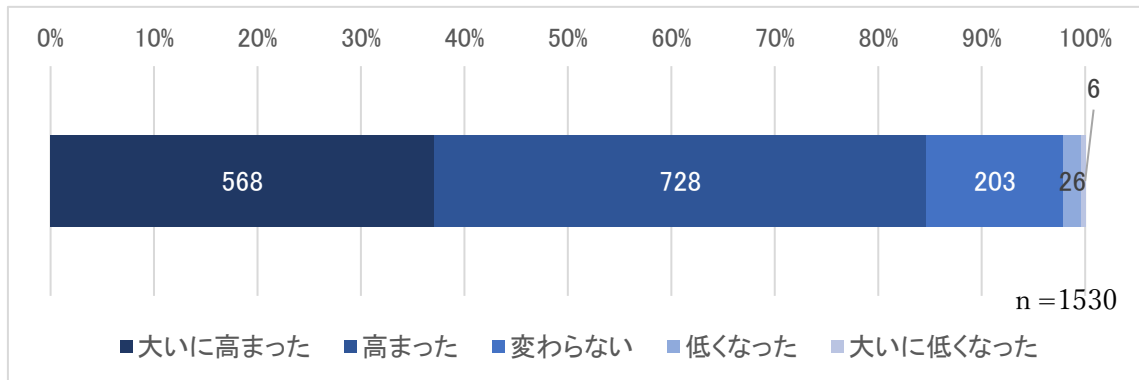
### i. 創大生における成長実感の特徴

学生生活アンケート回答結果を分析するなかで、創大生の大きな特徴の一つとして見えてきたことは、2年生、および3年生を対象とした成長実感に関する設問の1つである「他者と協力して行動する力」において、「大いに高まった」「高まった」との回答が非常に多いという事が確認できました。

図1は「入学時に比べて、あなたの以下のような能力や知識はどのように変化しましたか。(他者と協力して行動する力)」の回答結果を表したグラフです。「大いに高まった」と

「高まった」の回答数を合計すると8割を超える割合となっています。一方で、「低くなった」「大いに低くなった」の合計は2%程度と非常に少ない割合となっており、本学における学びを通じて多くの創大生が「他者と協力して行動する力」が身に付いたと感じていることが分かります。

図1 「入学時に比べて、あなたの以下のような能力や知識はどのように変化しましたか。(他者と協働する力)」



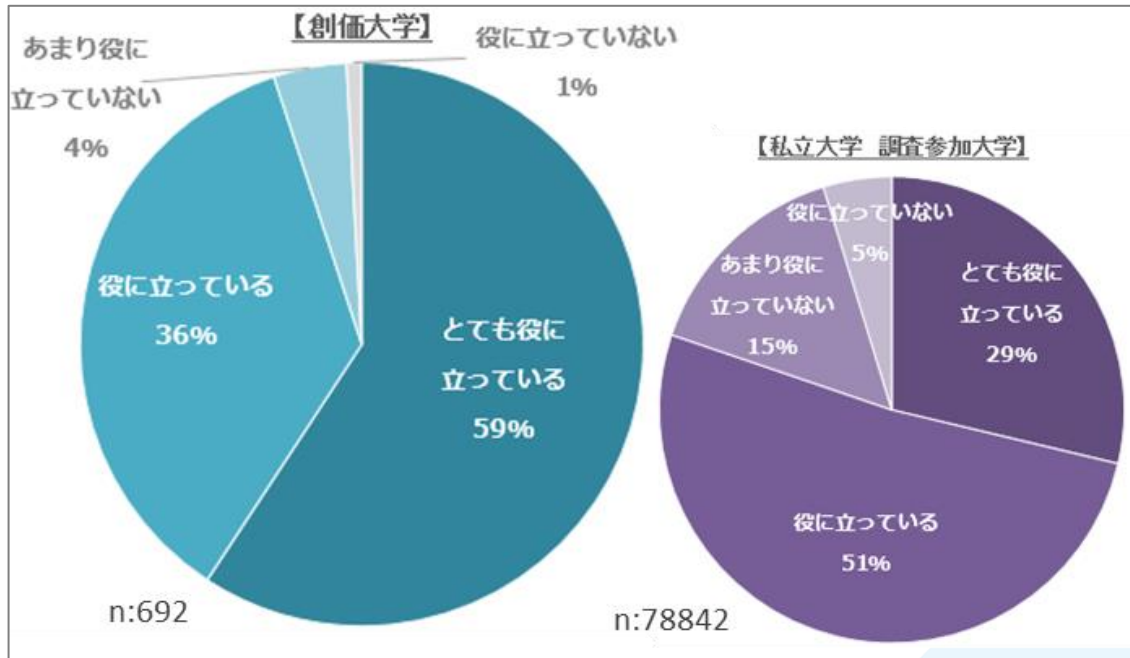
ii. 文部科学省「全国学生調査（試行）」による他大学との比較

2019年に文部科学省が実施した「全国学生調査（試行実施）」では、本学も含めた私立大学318大学が調査に参加しました。この調査の中で「知識や能力を身に付けるために、大学の教育が役に立っていると思いますか」との設問の中にある、「多様な人々と協働する力」に対する創大生の回答結果を見てみると図2の通り、調査に参加した私立大学全体では、「とても役に立っている」、「役に立っている」を合わせて80%であったのに対し、本学の学生は「とても役に立っている」、「役に立っている」を合わせると95%と非常に高い割合となりました。

この設問にある「多様な人々と協働する力」は、本学の学生生活アンケートの設問「他者と協力して行動する力」と同様の力であると考えられることから、本学が提供する学びは、他の私立大学と比較しても「多様な人々と協働する力」の育成において、有益なものと考えられます。

図 2 2019 年 文部科学省 「学生調査（試行実施）」

『多様な人々と協働する力』を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか。』

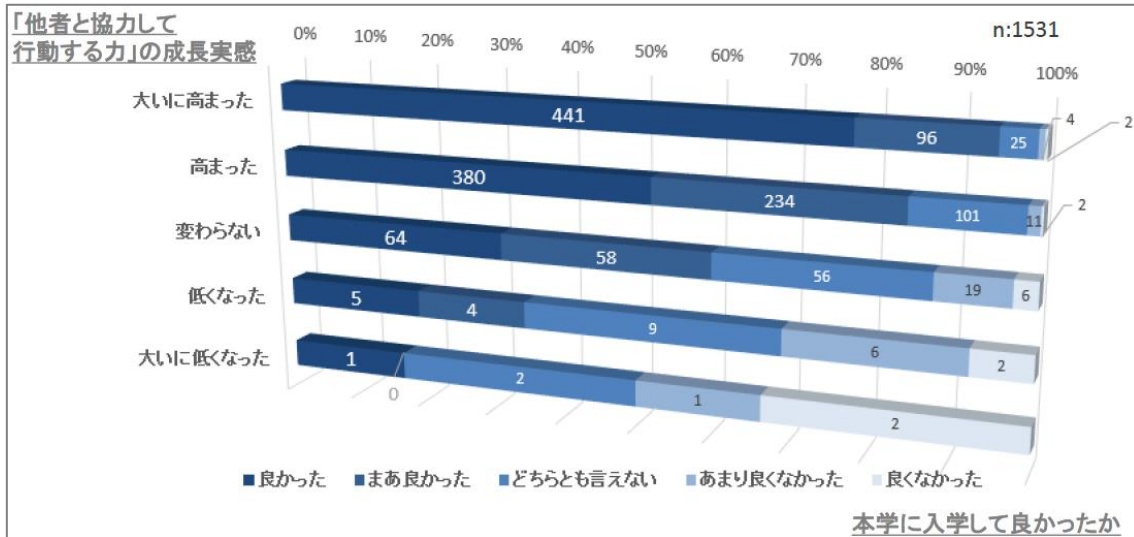


### iii. 学生の成長実感と大学満足度

また、学生生活アンケートの回答結果を分析するなかで、成長実感が高い学生は、本学への満足度も高いことも確認することができました。「他者と協力して行動する力」の成長実感に関する回答と、「本学に入学して良かったか」という大学への満足度をクロス分析した結果が図 3 となります。縦軸が「他者と協力して行動する力」の成長実感、横軸が「本学に入学して良かったか」との本学への満足度を表しています。

図 3 のグラフを見ると、「他者と協力して行動する力」が「大いに高まった」と回答した創大生の 77.6%が「本学に入学して良かったか」との満足度において「良かった」と回答しており、「まあ良かった」までを含めると 94.5%と非常に高い割合となっていることが確認できます。

図 3 『入学時から比べて「他者と協力して行動する力」はどのように変化したか?』と『創価大学に入学して良かったか?』のクロス集計分析



#### iv. 本学が提供する「他者と協力して行動する力」を育む教育環境

本学は学生同士による協力・協働を促す教育環境を正課の授業のみならず、学生生活全体を通じて様々提供しています。ここではその代表的なものを紹介します。

#### アクティブ・ラーニング型 授業科目の割合は約 8 割

協同学習(協働学習)の機会として、主体的な学び、対話的な学びを促す「アクティブ・ラーニング型授業」を本学は豊富に提供しており、その割合はおよそ 8 割に上ります。学生の受講状況としても、1 学期の間に 1 人の学生が平均 5 科目を超えています。

#### 55 ヲ国・地域から約 700 名の外国人留学生を受け入れ (※2019 年 9 月末時点)

本学は、在学生の約 10%が外国人留学生という人数構成となっています。その結果、本学のキャンパスが多様な国々の出身者と相互理解を深める場となっており、海外への渡航をせずとも、キャンパス内で異文化交流を経験することができます。

#### 約 55%の新生が学生寮での生活を経験

共同生活を通じた人材育成の一環として、学生の寮生活も教育環境の一つとして重要なものと本学は位置付けています。共同生活を通じ、寮に住む創大生同士が切磋琢磨しながら豊かな教養と健全な人格を育くむことを目指しています。



このように、本学は建学の精神に掲げられている「人間教育の最高学府」として、豊かな人間性を育む教育環境を提供することに努めており、学生生活アンケートや文部科学省「全国学生調査（試行）」の調査結果は、これらの取組が学生の「他者と協働する力」の成長に寄与していることを示していると考えます。



創価大学  
大学評価・IR 事務室